

(別紙)

平成23年2月より公募した建設技術研究開発助成制度（「実用化研究開発公募（継続のみ）」、「政策課題解決型技術開発公募」）について、採択課題を決定しましたのでお知らせします。

「実用化研究開発公募」は、地域のニーズ等に応じた実用化に近い（概ね5年後の実用化を想定）技術研究開発のテーマに対して、地域の産学官連携等により研究開発を推進する課題に対する公募です。

「政策課題解決型技術開発公募」は、国土交通省が定めた具体的推進テーマに対して、迅速に（概ね2～3年後の実用化を想定）成果を社会に還元させることを目的とした公募です。

建設技術研究開発助成制度評価委員会における審査結果を踏まえ、平成23年度建設技術研究開発助成制度の「実用化研究開発公募」、「政策課題解決型技術開発公募」の採択課題は次のとおり。

○「実用化研究開発公募」

応募8件（継続課題8件）のうち、継続課題8課題を採択

○「政策課題解決型技術開発公募（一般タイプ）」

応募72件（新規課題69件、継続課題3件）のうち、新規課題9課題（採択倍率7.7倍）、継続課題3件を採択

○「政策課題解決型技術開発公募（中小企業タイプ）」

（中小企業タイプは、平成23年度より新設した公募区分で、今年度は事前調査（F/S）として採択。）

応募42件（新規課題42件）のうち、新規課題6課題（採択倍率7.0倍）を採択

○実用化研究開発公募【継続課題 8 課題】

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付 予定額
<p>フェイルセーフ機構付き積層ゴム免震装置の開発</p> <p>（概要）設計時の想定を超える巨大地震を受けても損傷することなく、上部建屋の安全性を確保することが可能な免震装置を開発する。</p>	<p>(株)竹中工務店 技術研究所 主任研究員 濱口 弘樹</p>	<p>6,700 千円</p>
<p>無線センサネットワークによる多点型土砂災害予測システム</p> <p>（概要）集中豪雨による土砂災害を未然に防ぐために、対象斜面を多点でリアルタイムに観測できるコンパクトな監視システムを開発する。</p>	<p>大阪大学大学院 工学研究科 助教 小泉圭吾</p>	<p>7,200 千円</p>
<p>道路空間上の移動体に対する局所的大雨情報の伝達システムの開発</p> <p>（概要）本研究は、移動中の個人に対して、携帯電話、スマートフォンやカーナビ等を利用し、必要な防災関連情報を必要な時に提供するための仕組み（マイクロメディア）を構築するものである。</p>	<p>京都大学 防災研究所巨大災害 研究センター 教授 林 春男</p>	<p>7,320 千円</p>
<p>全層梁降伏型メカニズムを形成する中低層鉄骨ラーメン構造の開発</p> <p>（概要）大地震時においても、建物内の柱降伏を防ぎ、梁のみを損傷させる全層梁降伏型メカニズムとなるラーメン構造を確立する。</p>	<p>長崎大学 工学研究科 教授 木村 祥裕</p>	<p>9,100 千円</p>
<p>アジア諸国を対象とした社会資本アセットマネジメントのデファクト標準化戦略</p> <p>（概要）我が国のアセットマネジメント技術をデファクト標準化するため、「知識、システム、技術」の3視点から検討する。</p>	<p>京都大学 経営管理研究部 教授 河野広隆</p>	<p>8,120 千円</p>
<p>腐食劣化の生じた実橋梁部材を活用した鋼トラス橋の耐荷性能評価手法に関する研究</p> <p>（概要）実橋部材を対象とした実験的・解析的検討による、腐食劣化の生じた鋼トラス橋の耐荷性能評価手法を開発する。</p>	<p>(独) 土木研究所 構造物メンテナンス 研究センター 上席研究員 村越 潤</p>	<p>10,000 千円</p>
<p>大面積非構造材落下被害を有効に防ぐためのネット構造施工方法の開発</p> <p>（概要）地震時・非地震時を問わず発生する、既設の大規模集客施設の非構造材(吊り天井等)の落下被害に対し、施工が容易で、補強および落下防止の両方に有効なケーブルネット工法を開発する。</p>	<p>東京大学 生産技術研究所 教授 川口 健一</p>	<p>11,000 千円</p>
<p>山間遊水池としての洪水調節専用（流水型）ダムの高機能化に関する研究</p> <p>（概要）複数の小規模流水型ダムを山間遊水池として構築・管理することで大型ダムに依らない治水を実現する。</p>	<p>九州大学大学院 工学研究院 教授 小松 利光</p>	<p>9,360 千円</p>

○政策課題解決型技術開発公募【継続課題3課題】

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付 予定額
<p>非線形疲労応答解析に基づくコンクリート系橋梁床版の余寿命推定システム</p> <p>（概要）直接経路積分法に基づく数値損傷解析と検査技術を組み合わせて、コンクリート系橋梁床版余寿命推定システムを構築する。</p>	<p>東京大学大学院 工学系研究科 教授 前川 宏一</p>	<p>9,100 千円</p>
<p>X線ライナックを搭載した量子ビームロボットを用いた橋梁部材のCT計測システムの開発</p> <p>（概要）先進小型線形加速器と画像位置認識システムを組み合わせた橋梁部材における損傷・劣化のX線CT計測システムの開発。</p>	<p>東京大学大学院 工学系研究科原子力 専攻 教授 上坂 充</p>	<p>7,800 千円</p>
<p>実在文教施設の加力実験に基づく低コスト耐震補強法の開発</p> <p>（概要）優れた施工性と補強効果を有する耐震補強法を開発し、これを実在文教施設に用いた場合の性能を実験により検証する。</p>	<p>九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授 中原浩之</p>	<p>3,600 千円</p>

○政策課題解決型技術開発公募（一般タイプ）【新規課題9課題】

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付 予定額
<p>建築生産における三次元データを用いた維持管理データの管理・描画技術の開発</p> <p>（概要）建築生産段階で利用した意匠、構造、設備のBIMを統合し維持管理段階で活用するシステムを開発する。</p>	大成建設株式会社 副技術センター長 藤井俊二	12,000 千円
<p>コンクリート構造物に塩害劣化自己防衛機能を付与するための新しい混和材料の開発</p> <p>（概要）CaO・2Al₂O₃を成分とする混和材を開発し、コンクリート中で塩分を無害化して構造物の自己防衛機能を高め、長寿命化を図る。</p>	鹿児島大学大学院 理工学研究科 教授 武若耕司	15,180 千円
<p>被災堤防緊急対応のための3次元堤防可視化ツール及び対策設計システムの開発</p> <p>（概要）集中豪雨等で被災した河川堤防の効果的な対策工立案を可能にする3次元堤体可視化装置及び対策工選定支援システムを開発する。</p>	京都大学大学院 工学研究科 教授 松岡俊文	11,050 千円
<p>ミリ波・マイクロ波を用いた住宅大壁内の非破壊診断装置の開発</p> <p>（概要）電磁波を用いて非接触・非破壊で住宅の壁体内の構造や劣化を診断する反射型の2次元イメージング装置を開発する。</p>	京都大学大学院 農学研究科 准教授 藤井 義久	18,600 千円
<p>地震時の超高層建物の室内安全対策技術の開発</p> <p>（概要）強震時の避難行動や家具の転倒限界から室内安全性を評価し、超高層建物の改修を通して安全な社会資本形成へ繋げる。</p>	千葉大学大学院 工学研究科 教授 高橋 徹	11,700 千円
<p>ASR劣化構造物の力学性能推定技術の確立</p> <p>（概要）非破壊診断や数値構造解析を協働させたASR劣化構造物に対する定量的力学性能評価システムの構築。</p>	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 宮川 豊章	11,700 千円
<p>総合的な社会資本の戦略的維持管理システムの開発</p> <p>（概要）本研究は、蓄積された各種構造物の点検結果を分析・集約、統一的健全度評価尺度を開発し、社会資本の戦略的維持管理法を提案する。当面岐阜県内の道路関連施設を対象とする。</p>	岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 本城 勇介	9,230 千円
<p>防災、長寿命化実現のための超高強度高靱性モルタルを用いた水中ライニング工法の設計・施工法の開発</p> <p>（概要）栈橋等のインフラの防災、長寿命化を実現するため、超高強度高靱性モルタルを利用した水中施工法を開発するものである。</p>	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 國枝 稔	14,360 千円
<p>サンゴ礁州島形成場のモデルの開発</p> <p>（概要）サンゴ礁州島形成モデルを現地調査と水槽実験によって構築して、州島の保全・創成のための生態工学技術を開発する。</p>	東京大学大学院 理学系研究科 教授 茅根 創	10,400 千円

○政策課題解決型技術開発公募（中小企業タイプ）【新規課題6課題】

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付 予定額
<p>既設落石防護擁壁工に関する三層緩衝構造を用いた耐衝撃性能の高度化に関する技術開発</p> <p>（概要）既設無筋コンクリート製落石防護擁壁の耐衝撃性を1,000kJ級に向上させるための緩衝システムの開発</p>	<p>(株)構研エンジニアリング 代表取締役社長 大島 紀房</p>	<p>9,750 千円</p>
<p>最近の豪雪を踏まえた効率的・効果的克雪対策技術開発に関する研究</p> <p>（概要）地形や気象条件によって様々な発生形態をとる雪崩から、人命・財産・道路交通を守るため、予測される危険性ごとに随時対応可能な応急対策技術の開発と経済的評価手法の確立を目指す。</p>	<p>町田建設株式会社 代表取締役社長 町田 誠</p>	<p>9,940 千円</p>
<p>新燃岳火山灰の有効利用が可能な土木技術の開発</p> <p>（概要）現地での実行性が高く、速効性を持ち合わせた総合的な火山灰利用技術を構築する。</p>	<p>和光コンクリート工業株式会社 代表取締役 金丸 和生</p>	<p>8,800 千円</p>
<p>電波の位相差計測による広域岩盤崩落・崩壊リアルタイムモニタリングシステムの開発</p> <p>（概要）岩盤変位を精密にモニタリングできる電波位相差変位計測技術の実用化に向け、実現場における計測などを実施する。</p>	<p>株式会社地層科学研究所 代表取締役 里 優</p>	<p>9,490 千円</p>
<p>組立式台船を利用した自己投下式土運船</p> <p>（概要）汎用品の組立式台船を用い、空気圧で船体内の水を移動することにより横転させ、積載土砂を投下するシステム。</p>	<p>松原建設株式会社 代表取締役 佐川 信夫</p>	<p>2,000 千円</p>
<p>竹材等の低利用資源を用いた高性能壁土の開発</p> <p>（概要）壁土の補強材に竹材等の低利用資源による繊維を用いることで強度性能を安定かつ向上させる。</p>	<p>有限会社田園都市設計 代表取締役 大西 泰弘</p>	<p>6,500 千円</p>